

# 「食育セミナー」概要

中国四国農政局鳥取地域センター

- ◇ セミナー名 食育セミナー
- ◇ 日 時 平成24年6月27日(水) 13時30分～16時
- ◇ 場 所 倉吉体育文化会館 小研修室2
- ◇ 主 催 中国四国農政局鳥取地域センター
- ◇ 後 援 鳥取県、鳥取県教育委員会
- ◇ 対象者 鳥取県及び市町村関係課、  
学校給食関係者、消費者団体等
- ◇ 出席人数 全体41名(講師2名、主催者側6名含む)



## ◇ 開催の趣旨

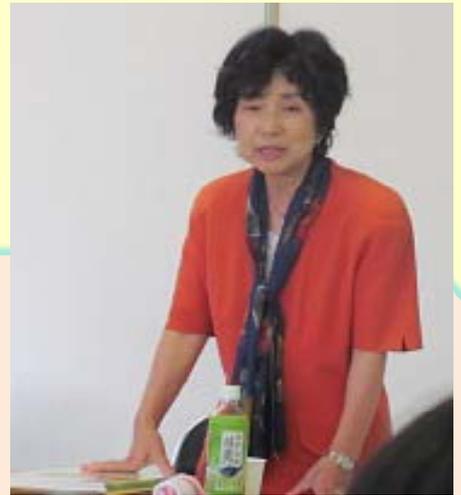
食への関心や理解の増進を図るためには、子どもを中心として農林水産物の生産に関する体験活動の機会を提供することが重要であることから、子どもへの食育を進めていく上で大きな役割を担っている保護者や教育、保育に携わる関係者等の意識の向上を図ることを目的に、食育セミナーを開催する。

## ◇ 議事次第

- 1 開 会
- 2 あいさつ  
中国四国農政局鳥取地域センター長 亀山 真二
- 3 講 演  
「食育の体験が育てるもの」  
講師:三原市立南方小学校校長 東 佐都子 氏
- 4 鳥取県における食育の取組  
鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課 難波 伸子 氏
- 5 意見交換会  
テーマ「食のあり方を考える」  
司 会:鳥取地域センター 総括管理官 高橋 昭二
- 6 閉 会

## ◇ 講演の概要

「食育の体験が育てるもの」  
講師：広島県三原市立南方小学校  
校長 東 佐都子 氏



### 【講師プロフィール】

#### 小学校教諭を経て

- ・平成3年～  
広島県立教育センター小学校国語科指導主事
- ・平成6年4月～平成11年3月  
大和町立神田小学校教頭  
この間、「総合的な学習の時間」の前身の取り組みとして、平成7年度より「合科的単元学習指導」の教育内容を図る
- ・平成11年4月～平成17年3月  
東広島市立久芳小学校校長  
平成16年1月「総合的な学習の時間」で取り組んだ「給食を作ろう 大作戦！」が「地域に根ざした食育コンクール2003」において農林水産省消費・安全局長賞を受賞
- ・平成17年4月～平成20年3月  
安芸高田市立向原小学校校長  
文部科学省研究開発学校指定、新教科「論理科」の開発を行う
- ・平成20年4月～平成23年3月31日  
三原市立小坂小学校校長
- ・平成23年4月1日～  
現職

## 講演のポイント

### 1 「食育基本法」からみる現代的な課題

平成17年に「食育基本法」が策定された。その後、本法及び食育推進基本計画に基づき食育活動が行われている。しかし、基本法ができるまでは、自然に家庭で行われていることが普通だった。

法律を作ってから食について教育をしなければいけないほど、今の食生活には課題が多い。

### 2 児童実態からみる現代的な課題

- (1) 物質的に豊かな時代の中で、「当たり前感覚」がある（食べ物があるのが当たり前）  
飽食時代の中、「もったいない、ありがたい、おかげで、おすそわけ」などの言葉や意味が薄れてきている  
「粗末にしない、工夫したり知恵を働かせたりする、力をあわせて」などを体感する場が少なくなっている
- (2) 主体性と忍耐力、困難に立ち向かう力に大きな課題がある（他力本願）
- (3) 人間関係の対応能力が薄らいできている  
異年齢集団での人間関係が構築できにくい

### 3 「食育」を通して（学校給食に着目した取り組み）

- (1) 「食」に関しての「当たり前感覚」の払拭
- (2) 自給自足の大変さと、農産物を作る喜びの体感  
「失敗の体験」や「壁にぶつかること」を通して忍耐力や困難に立ち向かう力を育成
- (3) 自治的な縦割り集団活動での人間関係対応能力を育成

#### 4 自給自足の体験が育てるもの「給食を作ろう大作戦！」の実践

(1) 平成14年度から小学校に導入された「総合的な学習の時間」に着目し、3年生から6年生を対象に「給食を作ろう大作戦！」の実践を保護者や教員に提案した。

◇目的：「食べることが出来ることは当たり前ではない」「食べ物を作ることは大変なこと」便利さと手軽さに慣れている子どもたちに必要なのは「実体験」と考え、給食を手作りすることで子どもたち自身の育つ力を育てる。

◇条件：①家からは何1つ持ってきてはいけないこと。②お金は1円もないこと。③困った場合は学校支援ボランティアに自らが相談すること。④保護者や先生は手出し・口出しを一切してはいけないこと。ただし、子どもたちが聞いてきた場合のみ助言はしても良いが、指示はしないで全て子どもたちに考えさせること。

◇内容：平成14年10月末に給食を止める。このため、4月から「総合的な学習の時間」を利用して子どもたちには給食を作るための準備を行わせる。

(2) 子どもたちは一生懸命に日々考え、野菜の栽培を思い付いた。しかし肝心の苗が無い。苗の入手方法を考えている時に、地域の農家の方の野菜ハウスの間引き菜を見つけ、もらえるよう農家に頼んだところ、ハウスで育てた何種類もの野菜苗も併せて頂けることになり、「ありがたい」という気持ちを持つことができた。

(3) 草ボウボウの学校の畑を自ら耕し、苗を植え野菜を育てた。枯れかけた苗もあったが、直前にある女の子がそれに気づき、水をあげ世話をしたところ翌日には見事に回復した。子どもたちは「生命の大切さ」をその時知った。

(4) 収穫したトマトは保存がきかないため、一部を冷凍した。冷凍したトマトは美味しくないことを給食停止初日に実感した子どもたちは、次の日にトマトスープにして見事に調理した。トマトを冷凍すると美味しくないことや「もったいない」ことなどを学んだ。

(5) 冷凍するスペースも出来ないほど夏野菜が沢山できたが、このままでは腐ってしまう。その後、料理するには調味料がいることに気付いたが調味料を買うにはお金が必要。子どもたちはどうすればいいか考え、野菜を売ることを見つけた。校内に無人直売所を作り、教師や保護者に野菜を売った。その結果、子どもたちは5,500円の収入を得た。

(6) その5,500円で調味料だけでなく、給食には動物性たんぱく質が必要であることから、それらを買う費用にした。

さらに、カルシウム源としての牛乳も必要であることから、校長を説得して牛乳を調達した。

(7) 肝心のお米が無い！と気付いた時は、既に田植えが終わった時期であった。あちこちの田んぼを探したが、既に田植えがほとんど済んでいた。子どもたちは地域で田植えの済んでいない農家を探し、田植えと稲刈りをさせて頂くことをお願いした。田んぼの管理は農家に任せだが、「ありがたさ」は十分味わった。

(8) そして給食停止の日。ほんのわずかしかなかったほうれん草をおひたしにして食べたところ、ほうれん草が嫌いだった子どもも「先生、ほうれん草って甘いんだねえ」と喜んで食べた。子どもたちはこの4日間に様々な料理を作った。

(9) 「給食を作ろう大作戦！」実践後、子どもたちは食べ物のありがたさや野菜作りの大変さなどを知るとともに料理の楽しさを学び、家庭で調理を手伝う子も増えた。

コンクール受賞後、経験した子どもに取材が来た。当時6年生だった男の子は「僕達は本当に辛い思いをした。でもどんな時代が来ても僕達は生きて行けます。食べ物があることへの感謝の気持ちをこの体験を通じて学びました。」と答えた。

(10) その年の卒業式。特に6年生は下級生の世話をしながらこの取り組みを行っていたため、下級生も卒業生も別れを惜しみ皆が声をはりあげ泣いた。この体験を通じ、子どもたちには大きな「絆」も生まれていたのだ。

取り組み発表「鳥取県における食育の取組」  
講師：鳥取県福祉保健部健康医療局健康政策課  
管理栄養士 難波 伸子 氏



## 取り組み発表のポイント

### 1 鳥取県の食育推進計画「食のみやことっとり～食育プラン～」

4つの重点目標として、①健全な食習慣の定着 ②食に関する正しい知識の習得 ③食に対する感謝の心を養う ④豊かな食文化の継承 を掲げ、それに付随する12の目標に基づき、健康づくり、教育、農林水産、食品衛生、地産地消など幅広い分野の活動を結んだ食育を推進する。

### 2 食育プランで掲げた目標値は改善傾向に推移

学校給食における地産地消率、家庭での食事を楽しく食べる子どもの割合は、目標値を達成。

子どもの朝食欠食率、運動習慣のある人の割合、「食事バランスガイド」を知っている人の割合、外食栄養成分表示を行っている飲食店舗数は、それぞれ改善傾向に推移している。

#### ◇ 意見交換会、質疑応答

※ 東先生から、広島県教育委員会での食育の取り組みについて発表があり、その後質疑応答を行った。

「給食を作ろう大作戦！」の総合学習の間、保護者にはどのように取り組み内容を報告していたか？

(東先生) 1ヶ月に1回、学校通信でお知らせした。  
「給食を作ろう大作戦！」の数ヶ月間は子どもとの食事の支度等でコミュニケーションが増えたと聞いている。  
また、子ども達がかぼちゃを生育時に、かぼちゃに敷きわらを敷く方法を保護者から学び、実践へと持って行った。  
実践後は、保護者の料理に口をつくようになったと聞いている。(笑)

1日の所要時間は？

(東先生) 3～5時間目を使用していた。

4日間の献立は？

(東先生)カレー、トマトスープ、竹を伐採して竹飯、炊き込みご飯、大根の葉のしょうゆいため、味噌汁、じゃがいも煮っころがし等。  
ポテトチップスも作ったが、一度揚げただけではカラツとしないため、二度揚げした方が良かったことも学んだ。

#### ◇ 食育セミナーアンケート結果

当センターでは参加して頂いた皆様に当日アンケートを実施しました。  
特に、東先生からは涙無しでは聞けない感動体験を多数お伝えいただき、皆様にとってもとても好評であったとの意見をいただいています。  
その一部をご紹介します。

とても素晴らしい講演でした。本当の食育を見たようです。ありがとうございました。

毎回、出席させて頂いています。昨年の事例と共通する事は、食育を行うにあたり、農の役割の大切さがいかに大きいからです。

東先生の話にも、至る所で教育にかかわる農業の役割がありましたし、人とのかかわり方の大切さがありました。もちろん、東先生の指揮官の大胆な発想の元に沢山の兵隊が集まり、1つの目的に向かって進んで行くお話しは胸が熱くなりました。そして、先生のお言葉の1つに「子供は信じるに値する」がありましたが、私達大人への戒めに聞こえました。

今日の東先生のお話しは大変良い企画でした。素晴らしい講演でした。本当の食育を見たようです。ありがとうございました。

もっと東先生の取り組みについて知りたいと思った。広島の教育委員会の食育の指導の位置づけ、体制がしっかりしていて良い。

意見交換会の内容が良かった、参考となった。ありがとうございました。

毎日忙しくてないがしろになりつつある食生活について、改めて自分自身のことを考えさせられました。

すござん新たな取り組みだと感嘆しました。

県の食育についての取り組みをくわしく知ることができ、良かった。